



1947-1953

中3のとき神戸市中学校大会で準優勝し、記念すべき初受賞。



10期生のプロフィール

六甲サッカー部創部以来在籍した松浦基之、鈴木 昭以後、サッカー部に名を連ねた者は多数にのぼるが、サッカー部員として卒業したのは松浦基之、鈴木 昭、立花昭美、門田尚武と1年病気休学した北條完治の計5名である。

昭和24年、六甲サッカー部史上記念すべき第1戦（対伊丹高校）が六甲のグラウンドで行われた。この試合に神戸一中から転校してきた松浦基之が出場して大活躍し、校内でまだ知る人もわずかであったサッカー部を一躍有名

にした。またその年10期が中3のとき神戸市中学校大会で準優勝し、記念すべき初受賞をしたことが10期の主たる戦績である。

この度各人にアンケート形式で、六甲卒業後現在に至る経歴やサッカー部時代の思い出を記述してもらい、意義ある50年史に全員参加することにした。（順不同、ほぼ原文のまま転載1993年3月）

アンケートの項目は

1. 高校卒業後現在に至る経歴。
2. サッカー部時代の主たるポジション。
3. 印象に残る試合があれば。
4. サッカー部時代の思い出。

鈴木 昭

1. 上智大学中退、神戸大学医学部大学院卒、大学病院勤務。現住所にて内科開業。
2. センターフォワード。
3. 中学時代に神戸市大会で準優勝したこと。
4. 物の不足した時代であったので、備品や食物に関してなにかと思い出の多い時代でもあった。

立花 昭美

1. 昭和32年（1957）姫路工業大学応用化学科卒。サッカー部がなく、4年間ラグビーを楽しむ。昭和35年（1960）三菱自動車工業㈱—当時三菱重工業

一名古屋自動車製作所入社。生産技術部長／技師長。平成2年(1990)関連会社役員に就任、現在に至る。

2. センターハーフ。(今は呼び方が違うのでしょうか)

3. A) 西脇高 or 西脇工高戦。

①GKの神田君が出場できず臨時GKを買って出たが、確か1-2で負けた。

②次のシーズンに再度対戦することになり、前半終了間際、大きくクリアしたボールが前進していた相手のGKの頭上を越えて無人のゴールに入り得点となり借りを返すと共に勝利した。——サッカーをやっていて公式戦で後にも先にもこの1点が自分の得点の記録。

B) 灘高戦—バックパスが自陣のゴールに、勝てる試合を落としたこと。(皆のがっかりした顔、申し訳なし)

4. ①つぎの当たったボール。満足の広さもないグラウンド。——試合にでると全く条件が変わる。それでも勝った試合があった。皆がそれぞれ工夫していたと思う。

②大学の試合、国際試合(スウェーデン、香港から来日)等を観戦できたことうれしく思い出す。

③中3の時、高校新人戦に出場。国体出場の長田高校と対戦、大敗。松浦基之「相手に失礼になるから以降の試合は棄権する。練習してそれ相応のレベルアップが出来てから参加しよう」。この言葉は今も忘れられない。

④全てにおいて良き先輩、同輩、後輩に恵まれたことを感謝しています。

⑤ヒルケルさんの件——間違っているかも知れませんがコンパのとき、洋菓子を差し入れてくれたと記憶していますが如何?

北條 完治

1. 昭和35年(1960)3月神戸大学経営学部卒。4月東洋曹達工業(株)(現東ソー)入社。経理、財務、企画(新規事業の調査、企画等)を経験し経理部次長、社長室長、現在取締役経営管理室長。高1時代から4年位病弱になり一切スポーツせず(体操も休み)。大学時代バスケット。社会人になってバドミントン部に属し、県体等に出場。

現在まったくスポーツをやっていない。

2. 左のウイング。1試合位は右のインナーでやった記憶があります。

3. 中1時代に野球部に属していたが、サッカー(中学)の神戸市の大会に出場するのに11名のメンバー不足で体操部(近藤君)や野球部からかり出されて出場した試合ぐらいいしか思い出せない。この大会で好成績をおさめ、県大会にも出場したように思うが、それらの試合出場を機に野球部をやめサッカー部に転部し高1ぐらい迄やったと思う。高校時代の試合出場の記憶はない。

4. 古いアルバムをながめていると、裸足で球を蹴っていたことを思い出す。

松浦 基之

1. 1953年4月東京大学文科1類入学、結核発病で3年休学、1961年法学部卒業、公務員上級職として同年4月建設省入省、1963年司法修習生、1965年弁護士登録。以後ずっと弁護士。この間、日本弁護士連合会調査室嘱託、調査室長、常務理事、東京弁護士会副会長など。

2. 短距離は得意ではなかったが、右のウイング。

3. サッカー部最初の試合は伊丹高校との試合であったと思うが、校舎の前の狭いグラウンドで走りまわった。国体の出場チームを決めるため西宮で雨の中試合をして負けた記憶がある。部の持っているボールも少なく、創設期のチームはまだ未成熟だった。

4. 私は一中(現在の神戸高校)から六甲高校への転校生だった。サッカー部に属していたので、転校の時に校長にサッカー部があるかどうか質問したところ、ないという返事で大変失望した。しかし、授業の合間に校庭でサッカーをしている先輩から転がってきたボールを蹴り返したのが契機で、サッカー部ができたことを知り、入部した。その年の強歩大会では一着の5人中、4人(高3の安田さん、谷田さん、中3の夏目君と高1の私)がサッカー部のメンバーであったと思う。当時の優勝者の写真を買って貰ったのが残

念。主将であった2年に結核になり、1年休学。以後強歩大会に出られず、記録を狙うことがないまま卒業。

門田 尚武

1. 昭和35年大阪大学医学部卒業。1年間インターンののち36年より阪大第二外科(消化器外科)入局勤務。昭和43年1月より神戸掖済会病院外科勤務ののち平成4年4月17日、自宅にて医院開業(外科、胃腸科、肛門科)。

2. レフトインナー(と当時はいっていました。現在 MIDFIELDER と言うんでしょうか)。

3. ①昭和24年神戸市中学大会で準優勝し神戸市代表となったこと、つづいて県大会1回戦で魚崎中学に敗れた1戦。

②高3の時、練習試合ながらその年兵庫県トップであった神戸高校と互角に戦い、2-2で引き分けた試合。(当時の六甲サッカー部のレベルは兵庫県40数校参加の大会で常にベスト8に入るところでした。不思議なことに神戸高校とは公式戦で1回も対戦がなく、一度力試しをしたいと思っていました)

4. 物のない時代、もちろんボールもなく、練習で使えるボールはただ1つ、手縫いでボールをこしらえたこともある(正円ではなかったが)。またサッカー部というよりもむしろ蹴球部といていた時代で、部員数も少なく試合となると人集めに苦心した。戦術も KICK AND RUSH や、W-M FORMATION、THREE BACK 等現代サッカーから考えるとまことに単純なものであったが、それなりに技術を取り入れ頑張って、また楽しんでいたものである。

[門田 尚武]